

8月11日(木)発行

当日の感動をすぐお届け!!

特別協賛：TOSHIBA Leading Innovation >>>

ほぼ

日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



楽劇の舞台を彷彿とさせる迫真的な表現 飯守のワーグナー劇場!



8月10日(水) 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団「ドイツ音楽の神髄! 飯守泰次郎のワーグナー」撮影：青柳聡

フェスタサマーミュージック8月10日に登場したのは東京シティ・フィル。指揮はかつての同団常任指揮者で現在は桂冠名誉指揮者の地位にある飯守泰次郎、深い信頼関係で結ばれてきた名コンビである。プログラムのメインは飯守の十八番であるワーグナー作品。会場には「飯守のワーグナー」を目当てに駆け付けたワーグナー・ファン、飯守ファンも多く見受けられた。

演奏会は神々しい響きの「ローエングリン」前奏曲で開始された。2曲目のみワーグナーでなく、ウィーンの名手ペーター・

シュミードルが奏でるモーツァルトのクラリネット協奏曲。ソロは本調子からは程遠かったが、随所に装飾を盛り込むなど味で聴かせようとするところが老練。編成を絞ったオケの優美さが際立った。

プログラム後半はまさに飯守の繰り広げるワーグナー劇場。壮大な広がりを見せた「タンホイザー」序曲の後、それとは対照的に、「トリスタンとイゾルデ」前奏曲と「愛の死」では遅いテンポのうちに大きなうねりを作り出して、暗く深い内的世界に分け入っていく。「ワルキューレ」の

「魔の炎の音楽」でのゆらめくような響き、「ワルキューレの騎行」の勇壮な迫力、楽劇の舞台を彷彿とさせる迫真的な表現に、ワーグナー指揮者飯守の面目躍如たるものがあった。もう少し練習時間があつたならと思わせる部分もみられたものの、東京シティ・フィルは大健闘。アンコールの「ローエングリン」第3幕前奏曲で客席の熱気も最高潮に達した。

寺西基之(音楽評論)



ペーター・シュミードル、飯守泰次郎両氏に終演後サインをいただきました。

8/10 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

お客様の声から♪

飯守氏の棒からは MAGIC FIRE が出ているようだ(タントリス) / 何と雄渾なワーグナーだろう。トリスタンでは怪しげなツヤまであって、本当に満足(匿名) / ワグナーは食わず嫌いだった。聴いてみたらスゴイことだった(80男) / リハーサルから聴くことができました。本番への変化、違いがとてもはつきり分かり、こうやって演奏を作っていくのかと面白く聞いていました(40歳・ねまきねこ) / 飯守さんの真骨頂を楽しめました。シティフィルの皆さんも、このままパイロイトで演奏しても遜色ない(OY) / ゲネプロと本番と、極上のワーグナー2回も格安で聴けて幸せ(匿名) / 私なりにサマーミュージック8日目です。今年も色々とお客さまの魅力に取りつかれました(66歳・会社員・ヒラさん) / 髪もすっかり白くなられたシュミードルさん、楽器の調子が悪くて不本意だったのでしょうか、素晴らしかったです(匿名)

NEXT!!

番外編

川崎市フランチャイズオーケストラ 東京交響楽団 今後の演奏会のご案内♪

ミュージア川崎シンフォニーホール&東京交響楽団 名曲全集第120回

若き精鋭ヴィオッティ渾身のプログラム



(C)Stephan Doleschal

9月4日(日) 14:00 開演
指揮：ロレンツォ・ヴィオッティ
管弦楽：東京交響楽団

ベートーヴェン：交響曲第4番変ロ長調 R. シュトラウス：歌劇「ばらの騎士」組曲 ラヴェル：ラ・ヴァルス

モーツァルト・マチネ 第26回

9月11日(日) 11:00 開演
指揮：大友直人
ヴァイオリン：大谷康子
管弦楽：東京交響楽団



(C)Rowland Kirishima



(C)尾形正茂

《オール・モーツァルト・プログラム》
ヴァイオリン協奏曲第3番 変ロ長調 K.216
交響曲第39番 変ホ長調 K.543

本日(8/11) コンサート前のお楽しみ♪

本日の「東京交響楽団」公演は「公開リハーサル」のある公演です。

11:30 ~ 最長 13:30

公開リハーサル中のみ、自由席です。

